

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地		
関西学研医療福祉 学院	平成12年3月31日	学院長 井坂 恵一	〒631-0805 奈良市右京1-1-5 (電話) 0742-72-0600		
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地		
学校法人 青丹学園	平成10年4月1日	理事長 岡田 憲太郎	〒631-0805 奈良市右京1-1-5 (電話) 0742-72-0600		
目 的	業界が必要とする人材を、人間性を培うとともに、企業と連携して医療・福祉等に関する専門的知識及び技術を修得させ、広く社会に貢献できる言語聴覚士を養成する。				
課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療専門課程	言語聴覚学科	2年(昼)	2305単位時間 (又は単位)	専門士	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技
	1785単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)	520単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人	81人	6人	26人	32人	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表 (有) 無 ■成績評価の基準・方法について 各科目ごと各学期に試験を行う A (80点以上) B (70点以上80点未満) 合格 C (60点以上70点未満) D (60点未満) - 不合格	
長期休み	■夏季：5週間 ■冬季：2週間 ■春季：2週間		卒業・進級条件	■卒業条件：2年以上在学し、本学科所定の合計2305時間を修得すること。 ■卒業条件：各学年において履修すべき科目のうち、認定されない科目(不合格)が1科目以上あれば、原則進級、卒業はできない。	

生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 担任及び学科長、保護者による四者 面談、学生相談室	課外活動	■課外活動の種類 スポーツ大会、ボランティア活動 ■サークル活動 (有・無)
就職等の状況	■主な就職先、業界等 病院、介護老人保健施設 ■就職率※ <sup>1</sup> 100%	主な資格・検定	言語聴覚士 (国家資格)
中途退学の現状	■中途退学者 2名 ■中退率 2.47% 平成29年5月1日在学者 83名 平成30年5月1日在学者 81名 ■中途退学の主な理由 経済的理由、病気、進路変更 ■中退防止のための取組 個人面談、学費相談 (分割納入や奨学金等)、保護者面談、補習授業		
ホームページ	<a href="https://www.seitan.ac.jp/kg/">https://www.seitan.ac.jp/kg/</a>		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職 (内定) 状況調査」の定義による。

① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したもとする。

② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員 (1年以上の非正規の職員として就職した者を含む) として最終的に就職した者 (企業等から採用通知などが出された者) をいう。

③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職 (内定) 状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない (就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

### 1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

- ・患者様や社会から必要とされ信頼される言語聴覚士となれるように、業界が必要とする人材を企業との連携等を活かして育成する。
- ・実習修了時には、実習担当者による学生の成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成30年5月1日現在

名 前	所 属
上林 弘幸	関西学研医療福祉学院
棚田 勝雄	関西学研医療福祉学院
玉木 啓之	関西学研医療福祉学院
西村 茂樹	医療法人 社団 岡田会 (リハビリ科：言語聴覚士)
佐守 友博	日本臨床検査医学会

(開催日時)

第1回 平成26年1月26日 14:40~15:40	第8回 平成29年8月19日 13:30~14:30
第2回 平成26年8月23日 13:30~14:30	第9回 平成30年1月20日 13:30~14:30
第3回 平成27年1月17日 13:30~14:30	
第4回 平成27年8月22日 13:30~14:30	
第5回 平成28年1月16日 13:30~14:30	
第6回 平成28年8月27日 13:30~14:30	
第7回 平成29年1月20日 13:30~14:30	

### 2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

言語聴覚士養成所指定規則に基づき、連携する医療・福祉・教育機関での臨床実習を実施。教育課程における位置づけや成績評価基準、意義についても明確にしている。また実習マニュアルを整備し運用している。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
臨床実習Ⅰ	臨床実習指導者のもと、言語聴覚療法を見学する。また施設内における言語聴覚部門の役割を理解し将来を見据える。	奈良県総合リハビリテーションセンター、高井病院
臨床実習Ⅱ	総合的に実際の症例を通じて評価、治療立案、訓練を行う。知識と援助技術の統合を図る。さらに対象者と家族へのかかわりかた、他職種からの情報収集を行い連携のありかたを学ぶ。	山の辺病院、高の原中央病院、西の京病院
臨床実習Ⅲ	実際の症例を通じて各種障害の評価、治療指導計画を立案。また他職種との連携についても学ぶ。	奈良春日病院

### 3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本学院の定める「他所への臨床及び講義講演等の規定」において、学外の学校・病院・企業等への参画は奨励しており、その成果を学生教育に活かすことを目的としている。

#### 4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成30年5月1日現在

名 前	所 属
上林 弘幸	関西学研医療福祉学院
棚田 勝雄	関西学研医療福祉学院
澤浦 知子	関西学研医療福祉学院
栗山 康弘	関西学研医療福祉学院
浅川 数典	関西学研医療福祉学院
玉木 啓之	関西学研医療福祉学院
藤島 ルイコ	関西学研医療福祉学院
岡田 哲朗	医療法人 社団 岡田会 (歯科医師)
渋谷 淳子	医療法人 社団 岡田会 (看護師・事業部長)
福田 邦彦	保護者代表
竹中 唯	卒業生代表 (看護師)
安井 誠	地域代表

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <https://www.seitan.ac.jp/kg/>

#### 5. 情報提供

(情報提供の方法)

閲覧 (事務所: 備え付け) とホームページに掲載 (様式4)

URL: <https://www.seitan.ac.jp/kg/>

## 授業科目等の概要

(医療専門課程 言語聴覚学科) 平成30年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			医学総論	健康・疾病・障害の概念と社会環境、医の倫理、医療行為、人口・保健統計、疫学、健康管理等について学ぶ。	1・前	30	2	○			○			○		
○			解剖学Ⅰ（一般）	人体の構造を中心に、細胞と組織、系統発生等について学ぶ。	1・前	30	2	○			○				○	
○			生理学	細胞生理、神経・筋生理、感覚機能、自律機能、血液、循環、呼吸、消化と吸収等について学ぶ。	1・前	30	2	○			○				○	
○			病理学	疾病の原因、病変、遺伝、免疫等について学ぶ。	1・後	30	2	○			○				○	
○			内科学(老年医学を含む)	内科診断学総論、内科治療学総論、循環器疾患、呼吸器疾患、膠原病・アレルギー・免疫疾患等について学ぶ。	1・後	30	2	○			○				○	
○			小児科学	小児の発達と成長、胎児医学と出生前医学、脳性麻痺と運動器疾患、てんかんと痙攣性疾患等について学ぶ。	1・後	30	2	○			○				○	
○			精神医学	精神疾患の分類、正常と異常、内因性疾患、神経症と心因性障害、精神衛生等について学ぶ。	1・前	30	2	○			○				○	
○			リハビリテーション医学	リハビリテーション医学の理念、診断と評価、治療学、各種の疾患のリハビリテーション等について学ぶ。	1・前	30	2	○			○				○	
○			耳鼻咽喉科学	耳科学、鼻科学、口腔・咽頭科学、喉頭科学、気管食道科学等について学ぶ。	1・前	30	2	○			○				○	
○			臨床神経学Ⅰ（脳神経外科学）	脳血管障害、脳神経外科学等について学ぶ。	1・後	30	2	○			○				○	
○			臨床神経学Ⅱ（神経内科学）	変性疾患、脱髄疾患、認知症、末梢神経障害、筋疾患等について学ぶ。	2・前	30	2	○			○				○	
○			形成外科学	形成外科学総論、口唇・口蓋裂、頭蓋・顔面の異常、外傷、頭頸部外科手術に伴う変形・機能障害等について学ぶ。	1・後	15	1	○			○				○	

○		臨床歯科医学	歯・歯周組織、口腔衛生、口腔・顎・顔面、顎関節、唾液腺、言語障害と関係ある疾患等について学ぶ。	1・前	30	2	○				○							○
○		解剖学Ⅱ（呼吸発声発語系の構造・機能）	呼吸器系の基本構造、呼吸運動、呼吸機能検査、喉頭の基本構造、喉頭の機能等について学ぶ。	1・前	30	2	○				○							○
○		解剖学Ⅲ（聴覚系の構造・機能）	聴覚器官の構造、聴覚器官の機能等について学ぶ。	1・後	30	2	○				○							○
○		解剖学Ⅳ（神経系、呼吸発声発語系、聴覚系の構造・機能・病態）	中枢神経系の構造、末梢神経系の構造、中枢神経機能、末梢神経機能、中枢神経の病態等について学ぶ。呼吸の病態、聴覚器官の病態等について学ぶ。	1・後	30	2	○				○							○
○		臨床心理学Ⅰ	人格理論、発達各期における心理臨床的問題、心理療法等について学ぶ。	1・前	30	2	○				○							○
○		臨床心理学Ⅱ		1・後	30	2	○				○							○
○		生涯発達心理学Ⅰ	発達の概念、胎児期、新生児期・乳児期の発達、児童期の発達、青年期の発達等について学ぶ。	1・前	30	2	○				○							○
○		生涯発達心理学Ⅱ		1・後	30	2	○				○							○
○		学習・認知心理学	感覚・知覚、学習、記憶、思考等について学ぶ。	1・前	45	3	○				○							○
○		心理測定法	実験法、精神物理学的測定法、テスト理論、尺度構成法、調査法等について学ぶ。	1・前	30	2	○				○							○
○		言語学	言語学の基礎、日本語学、言語心理学等について学ぶ。	1・前	30	2	○				○							○
○		音声学	発声発語器官と構音、音声記号、音声連続、超文節的要素、日本語音声学等について学ぶ。	1・前	45	3	○				○							○
○		音響学	音の物理的側面、音響管の周波数特性、音声産出の音響的過程、音源波の性質、母音の産出と知覚等について学ぶ。	1・前	30	2	○				○							○
○		聴覚心理学	聴覚説、音の心理物理学、聴覚のマスティング現象、両耳の聞こえ、生活環境と聴覚等について学ぶ。	1・後	15	1	○				○							○
○		言語発達学	乳児期の言語発達、幼児期の言語発達、児童期の言語発達等について学ぶ。	1・前	15	1	○				○							○

○		社会保障制度	社会福祉と社会保障、社会保障制度の体系、社会福祉の法律、障害者福祉法とその運用等について学ぶ。	1・前	15	1	○			○		○		
○		リハビリテーション概論	リハビリテーションと障害論、医学的リハビリテーション、教育的リハビリテーション等について学ぶ。	1・前	15	1	○			○		○		
○		医療福祉教育・関係法規	医事法規、言語聴覚士法、医療関係職種と法規、福祉関係職種と法規、教育関係職種と法規等について学ぶ。	1・前	15	1	○			○		○		
○		言語聴覚障害概論Ⅰ	言語聴覚障害総論、臨床の基礎知識、言語聴覚士の職務内容、職業倫理等について学ぶ。	1・前	30	2	○			○		○		
○		言語聴覚障害概論Ⅱ	臨床実習に必要な知識や技術等について学ぶ。	2・前	30	2	○		△	○		○		
○		言語聴覚障害診断学Ⅰ	成人分野の評価・診断の理念、評価・診断の過程、指導・訓練計画の立案等について学ぶ。	2・前	30	2	○	△		○		○		
○		言語聴覚障害診断学Ⅱ	小児分野の評価・診断の理念、評価・診断の過程、指導・訓練計画の立案等について学ぶ。	2・前	30	2	○	△		○		○		
○		失語症Ⅰ-1	失語症の定義、症状と症候群、診断・評価、言語訓練、小児失語症等について学ぶ。	1・前	30	2	○			○		○		
○	失語症Ⅰ-2	1・後		30	2	○				○		○		
○	失語症Ⅱ	2・前		60	4	○				○		○		
○		高次脳機能障害学Ⅰ	神経心理学のリハビリテーション、様々な神経心理症状の特徴と鑑別診断、治療等について学ぶ。	1・後	30	2	○			○		○		
○	高次脳機能障害学Ⅱ	1・後		30	2	○	△			○		○		
○		言語発達障害Ⅰ	特に知的能力障害、注意欠如多動性障害について、言語発達障害の評価、指導・訓練等について学ぶ。	1・後	90	6	○			○		○		
○		言語発達障害Ⅱ	運動機能障害、重複障害についての評価、指導・訓練等について学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		
○		言語発達障害Ⅲ	特に限局性学習症、特異的言語発達障害についての評価、指導・訓練等について学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		

○		言語発達障害Ⅳ	特に自閉スペクトラム症についての評価、指導・訓練等について学ぶ。	1・後	30	2	○			○		○		
○		音声障害	声の特性と機能及び調節、音声障害のメカニズムと分類、音声の検査、評価、診断等について学ぶ。	2・前	30	2	○			○				○
○		構音障害Ⅰ（機能性構音障害）	特に機能性構音障害のメカニズムと特徴、評価指導・訓練等について学ぶ。	1・後	30	2	○			○		○		
○		構音障害Ⅱ（運動性構音障害）	特に運動性構音障害のメカニズムと特徴、評価指導・訓練等について学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○		
○		構音障害Ⅲ（器質性構音障害・舌癒）	特に器質性構音障害（舌癒）のメカニズムと特徴、評価指導・訓練等について学ぶ。	1・後	30	2	○			○				○
○		構音障害Ⅳ（器質性情音障害・口唇口蓋裂）	特に器質性構音障害（口唇口蓋裂）のメカニズムと特徴、評価指導・訓練等について学ぶ。	2・前	30	2	○			○				○
○		嚥下障害Ⅰ	咀嚼と嚥下、嚥下機能の発達と衰退、嚥下障害のメカニズム、検査・評価、治療・訓練等について学ぶ。	1・後	30	2	○			○		○		
○		嚥下障害Ⅱ		2・前	45	3	○			○		○		
○		吃音	吃音の基礎知識、検査と評価、訓練・指導等について学ぶ。	2・前	30	2	○			○				○
○		小児聴覚障害Ⅰ	聴覚障害の原因、種類、発達、評価、指導について学ぶ。乳幼児聴力検査について実習を含めながら学ぶ。	1・後	30	2	○			○				○
○		小児聴覚障害Ⅱ		2・前	30	2	○			○				○
○		小児聴覚障害Ⅲ		2・前	30	2	○			○				○
○		成人聴覚障害Ⅰ	成人聴覚障害指導法、成人聴力検査について実習を含めながら学ぶ。	1・後	30	2	○			○				○
○		成人聴覚障害Ⅱ		1・後	30	2	○			○				○
○		成人聴覚障害Ⅲ		2・前	15	1	○			○				○



○		補聴器・人工内耳	補聴器の構造と機能、補聴器のフィッティング、人工内耳の構造と機能、人工内耳のマッピング等について学ぶ。	2・前	30	2	○			○				○
○		視覚・聴覚二重障害	視覚・聴覚二重障害の種類と特性、評価と訓練等について学ぶ。	2・前	15	1	○			○				○
○		臨床実習Ⅰ	言語聴覚士の指導の下に、評価・指導・訓練等、現場での言語聴覚療法を学ぶ。	1・後	40	1			○		○			○
○		臨床実習Ⅱ		2・後	320	8			○		○			○
○		臨床実習Ⅲ		2・後	160	4			○		○			○
○		レクリエーション活動援助法Ⅰ	レクリエーション活動を通してレクリエーションの意義・役割を理解し、特にレクリエーションワーカーとしての実技を習得する（レクリエーションインストラクター資格取得可）。	1・前	30	1	○		△	○			○	
○		レクリエーション活動援助法Ⅱ		1・後	30	1	○		△	○			○	
○		レクリエーション活動援助法Ⅲ		2・前	30	1	○		△	○			○	
合計				65科目	2395単位時間 (135単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
各科目授業時間数の3分の2以上の出席をもって科目試験を受けることができる。各学期に科目ごとに試験を行う。なお臨床実習においては、時間数の5分の4以上の出席および実習修了時に実習担当者による学修成果の評価を踏まえ成績評価を行う。すべて単位認定を経て卒業要件とする。		1学年の学期区分	21期
		1学期の授業期間	22週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。